



- ① 地域の魅力と交流を育む「しろいし GROW PARK」
- [要点] ② 本事業の特徴と地域性を捉えた事業実施の「3つの柱」
- ③ 「人と地域が輝き、共に新しい価値を創造するまちしろいし」の実現

背景や目的、コンセプトを踏まえた、事業実施の全体方針

“Make the place, Grow the circle”
しろいし GROW PARK
**愛される場をつくり、
 魅力と交流をはぐくむ道の駅**

白石には、山々をはじめとする豊かな自然、文化や伝統、歴史、暮らしの知恵、米をはじめとする農作物など、地域の魅力がたくさんあります。

この地域の魅力を創り上げ、大切に守り続け、未来につなげてきた人々がいます。

地域の魅力と未来につなげてきた人たちの場所。白石には、様々な活動が育まれてきました。

「しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点 ～人々の健やかなところからだを育む道の駅～」を踏まえ、当グループは、とくに「育む」を中心に据えて事業を展開することで、地域の課題解決や魅力向上、さらには防災拠点化が可能になると考えます。

当グループは本施設を、毎日のようにワクワクが生まれ、市民のみなさまや来訪者にみなさまに愛されるような、期待溢れる場所にしたいと考えます。

本施設が白石の新たな価値の創造、未来への希望を継続させる「魅力と交流をはぐくむ道の駅」として、貴市が目指す2030年の将来像「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまちしろいし」の実現に寄与します。



育む
10の「コト」

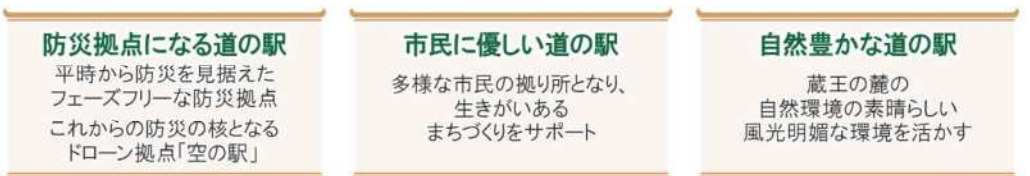


当グループは本施設を「しろいしGROW PARK」と仮称し、「育」をキーワードに事業を行います。地域資源や地産品などのモノを育み、コトを興し育むことで、ヒトが育まれるという考え方にに基づき、特に左記10のコトに重点を置き、未来共創と観光の場を作り、様々な輪を育みます

育まれる
「ヒト」



事業実施の
3つの
「柱」



食や農の体験、運動を通じた健康増進や、多世代の交流を促すような具体的な提案

1 しろいし地域の農と食と人をつなぐ仲介者として活力ある未来に向けて貢献

●南東北のへそ/知産知消による地域を育む

- ・物販・飲食施設でのサービス提供過程で、商品の生産者・生産プロセス・生産地などを知ってもらい(知産)、地元ではどのように消費(料理)されているかを教え広めていく(知消)ような「**知産知消**」体験を提案します。

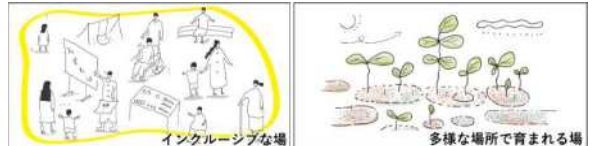


図表 1-1-1 「知産知消」体験

2 あらゆる能力や年齢、身体的・精神的な特性の人々が安全かつ快適に遊べる公園づくり

●インクルーシブな場、社会性を育む

- ・遊具や施設のデザインや配置は、異なる年齢層や能力レベルの人々が**安全・快適に楽しめる**ように配慮します。
- ・様々な人が集りやすい施設を目指し、**大小様々な居場所**をつくり、利用者同士が**同じ場所を共有**することで世代を超えた交流を生み出します。



図表 1-1-2 左)インクルーシブな場/右)GROW PARK のイメージ

3 回遊性の高い空間によって、新たな発見や人々の出会いを創出

●円環状の道の駅が新たな出会いと体験を育む

- ・円環状の道の駅は、それぞれの機能を強く結びつけます。まるく連なる形は、探索する楽しみを促し、様々な居場所をつなぎとめ、道の駅に集まる**活動の相乗効果**を作り出します。

●おもいおもいに過ごす場を育む

- ・防災公園も**円形をモチーフにした居場所**と**変化に富んだ街路**からなる構成とし、**敷地全体に回遊性**を生み出します。曲がりくねった小道や遊歩道が探検する楽しみを育み、公園全体が魅力的で活気に満ちた場所となります。



図表 1-1-3 新たな発見や人々の出会いが生まれる防災公園

4 物品販売施設と連携した大屋根広場の活用

●文化と交流を育む

- ・大屋根広場は地域コミュニティをはじめ、観光客や周辺住民など**様々な来訪者が交流**できるスペースとなります。
- ・日常的に様々なイベントやワークショップが開催され、例えば地元の**伝統文化や芸能の披露**、**地元の高校生による吹奏楽**などのイベントが開催されます。



図表 1-1-4 人々を出迎える大屋根広場の外観

日常的な利用に加え、周辺の地域資源と相乗効果をもたらす、道の駅を核とした新しい滞在・体験型の観光

5 市内周遊を促す仕掛けで、観光を点から面へ

●地域への回遊性を育む

- ・観光案内所では**周辺観光スポットへの案内**や、道の駅を出発地とした自然散策や地域探訪ツアーなど**体験プログラム**も充実させます。
- ・**パークアンドライド**や**車中泊**が可能な設備を整備し、本施設での滞在時間を確保しつつ市内周遊を促します。



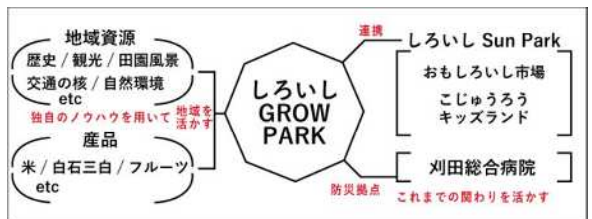
図表 1-1-5 新しい発見に出会える観光案内スペース

地域経済活性化

6 地域との関係性をさらに深化させ、地域経済活性化に寄与

●地域の魅力的な企業と人を育む

- ・私たちは、**高い専門性**をもつと同時に、**地域との関りが深い事業者**が中心となったグループです。これまで地元企業・地元生産者と築いてきた関係性をさらに発展させ、**地域資源・産品、地域企業を最大限活用**します。
- ・地域人材を積極的に雇用します。貴市在住の元気な高齢者の雇用をはじめ、障害者も働ける分野を設置し、**多様な地域人材が活躍**できる場を提供します。



図表 1-1-6 地域に根差した企業が集まる当グループ



- ① 場と交わりを最大化する道の駅の配置計画
- [要点] ② 広大な敷地を行き来しやすい配置計画
- ③ 滞在・体験型の新しい形の施設づくり

道の駅と防災公園が相乗効果をもたらす施設配置

1 場と交わりを最大化する道の駅の配置計画

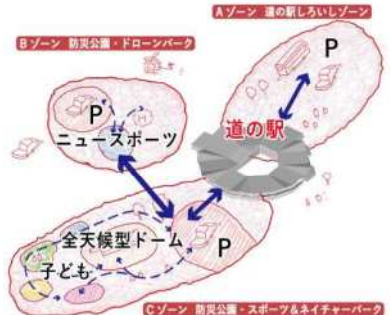
・円環状の道の駅と回廊状の動線により、多世代交流を生む地域拠点機能と、災害から人を守る防災拠点機能が有機的に重なる建築・広場群を提案します。



図表 1-2-1 施設配置ゾーニング図

● 道の駅が A、B、C ゾーンをつなぐ

- ・道の駅は、各ゾーンをつなぐ結節点となるように防災公園に最大限近づけた施設配置とします。
- ・Aゾーンの駐車場は、**駐車スペースが分断されないよう、敷地北側に集約**して計画します。安全性に配慮した歩車分離計画と効率的な駐車台数を確保したと駐車場計画とします。
- ・AゾーンとBゾーン間の高低差を大スロープと階段によって段差解消し、歩行者動線を創出します。ランドスケープと一体となったこの「**ブリッジ**」が、**広場をつなぎ、回遊動線を可視化**することで、道の駅と防災公園の相乗効果を強めます。
- ・Bゾーンは、ニュースポーツの他、ヘリポートを活かした屋外ドローン広場など、**遊び・競技と交流**を育む「**防災公園・ドローンパーク**」を設えます。
- ・Cゾーンは、様々なイベントを受け入れる全天候型ドームの他、子ども遊びエリア・農業体験施設など、**食・自然環境の学びと多世代交流**を促す「**防災公園・スポーツ&ネイチャーパーク**」を設えます。



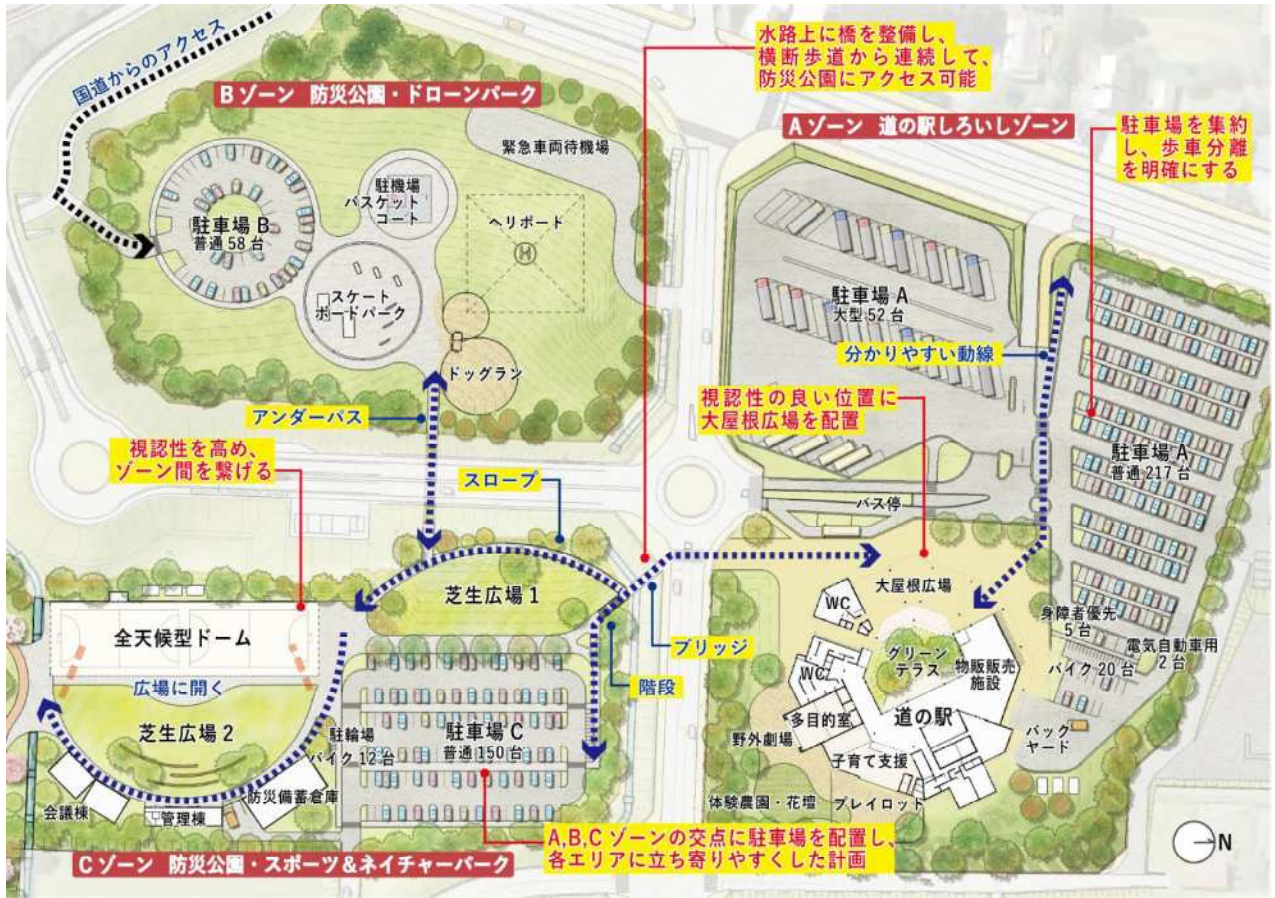
図表 1-2-2 道の駅を起点として、各ゾーンをつなぐイメージ



図表 1-2-3 施設配置ゾーニングイメージ図

2 道の駅に立ち寄りやすい駐車場配置計画

- ・ A、B、C ゾーンを繋ぐ動線を生み出すために、市整備の横断歩道に合わせた施設配置、高低差のあるゾーン間を解消するスロープ、レベルの計画を提案します。



図表 1-2-4 A、B、C ゾーンをつなぐ動線計画

● 道の駅を防災公園に近接配置

- ・ 道の駅を防災公園側に最大限近接して、配置します。また、防災公園の**駐車場 C も道の駅側に寄せて配置**することで、道の駅へ立ち寄りやすい動線計画とします。
- ・ **目的性の異なる利用者もスムーズに行き来しやすく**することで、双方のエリアの相乗的な関係性を生み出します。

● 動線をつなげる「ブリッジ」

- ・ A ゾーンと B ゾーンは横断歩道付近で、3m 近く高低差があり、横断歩道から防災公園へは水路を横断する必要があります。
- ・ 当グループは、**横断歩道から連続する形で水路上に歩道橋をかけ**、レベル差を解消するようにスロープを設けることで、**動線をスムーズにつなげます**。

● 防災公園のエントランスゲートにもなる「全天候型ドーム」

- ・ 全天候型ドームは**道の駅側から視認性**を高めるように配置します。
- ・ 長方形のドームは周辺から視認しやすく、アイキャッチとなることで、**防災公園への動線を誘因するエントランスゲート**としても寄与します。



図表 1-2-5 道の駅と防災公園をつなぐ、配置計画

道の駅と防災公園（スポーツレクリエーション施設）を一体的に整備・運営することによる、魅力的で良質なサービス提供の実現

- ・当グループは道の駅と防災公園を一体的に整備・運営することのメリットを最大限活かし、「道の駅 3.0」を超えた「新時代の道の駅 4.0」を実現するため、以下の「防災拠点になる道の駅」「市民に優しい道の駅」「自然豊かな道の駅」を三本柱として事業を実施します。

3 防災拠点になる道の駅 ～新時代の防災拠点「空の駅」～

●ドローンを核とした防災拠点「空の駅」

- ・平常時は全天候型ドーム内外でドローンアクティビティを行っています。災害時にはここを拠点としてドローンによる**非破壊検査（UT 検査）**等を行うこととなります。
[様式 4-5-4 参照]
- ・ヘリポートを活用して遊覧ヘリコプターの運用を行います。非常時、災害時には、ヘリコプターでの人命救助、遮断された離村などへ**救助物資を搬送する拠点**となります。
- ・開業後には、貴市がデジタル田園都市国家構想交付金を原資に、これらの**災害時の対応に必要なITやAIを駆使したインフラ整備**を行います。

ドローンによる非破壊検査(UT 検査)

- 第一段階** 道路の寸断や建物の倒壊、崖崩れなど被害状況をドローンで確認するとともに、残存者の有無やその人数等を確認。
- 第二段階** 屋内飛行可能な球体ドローンで破壊建造物内の残存者の有無などを映像および赤外線検出。その映像を災害本部に送信・共有。
- 第三段階** 医薬品や緊急物資などの必需品の配送を実施。また、避難場所や仮設住宅の設置予定地の状況を確認・報告。さらに、橋梁、道路、鉄道などを点検、取得した3D画像を元にその危険性を判断。

●フェーズフリーな防災拠点

- ・非常時・災害時は**本施設の全てに避難者を受け入れます**。平常時から様々な状況を想定した訓練を全スタッフで実施します。[様式 4-2-3 参照]
- ①水と非常食を常時ストック
- ②災害時用の発電装置などを行政の支援も受け、配備設置
- ③飲食施設・物販施設の食料品や飲料等は避難者へ無償配布
- ④防寒対策用の衣料は防具も、開設後に行政の支援もうけて備蓄



図表 1-2-6 備蓄品イメージ

4 市民に優しい道の駅 ～みんなが成長する拠りどころ～

●様々な状況の人の生きがいとなるインクルーシブな職場

- ・本施設付近の「白石きぼう学園」への入学希望者が市外からも増えている状況から、**児童の保護者に職場を提供**します。入学・移住を検討する際に、保護者が働く場所が近くにあることで、**子どものより良い学びを後押し**できると考えます。
- ・貴市の元気な高齢者にも働く場を提供します。
- ・障害者の方々の方が働ける部署を販売、接客、運搬、清掃など可能な分野で設置します。

白石きぼう学園

文部科学省指定の小中一貫の不登校特例校。「学校らしくない学校」をコンセプトに、一人でも多くの児童生徒に適した柔軟な学びを展開している。全児童が進学するという実績もあり、本校を目的として移住してくる家族も増えている。

●頼れる食事の場を提供

- ・農業体験ゾーンや飲食施設との連携により、定期的に親子連れでも利用できる子供食堂を開設します。

5 自然豊かな道の駅 ～蔵王の麓の風光明媚な環境～

●見て感じて味わえる、しろいしの魅力

- ・白石蔵王駅にむけてスピードダウンする東北新幹線と東北自動車道路、国道4号線の3つが織りなす風景と、蔵王の山並みと田園風景は本地域の大きな魅力です。この風光明媚な環境に溶け込む道の駅の全体像を大切にします。
- ・農業体験ゾーンではこれらの風景を背に、自然を感じながら稲作や畑作を体験できます。野菜創りで有名な渡辺明シェフの指導のもと、**地元食材を利用した料理や地元特産の発酵食品**を楽しむことができます。



図表 1-2-7 蔵王の麓の田園風景

●洗練されたカフェ空間

- ・本地域の環境やインクルーシブかつ洗練されたコンセプトにも親和性が高いと考え、トーベ・ヤンソンの童話の世界観を感じられるムーミンカフェを開業予定です。[様式 4-2-5 参照]
- ・加えて、トーベ・ヤンソンゆかりの街との姉妹都市化をフィンランド大使館に申請します。インバウンドも含めて、蔵王や松島などへの観光客の立ち寄り、道の駅とします。

利用者の長時間滞在やリピート利用を促す創意工夫

6 お気に入りの場所を持つことで、ずっと居られる、また来たくなる公園

- 多様な目的性のある人々を障害なく受け入れられる場所を目指します。大小様々な大きさのある居場所となる空間を広大な敷地内に点在して配置します。それらの場所を散策しながら、自分の好きな場所を発見する・居心地の良い空間をつくることのできるような設えを施します。ずっと居たくなるお気に入りの場所を持つからこそ、長時間滞在やまた来たくなるリピート利用につながります。
- 本施設の大きな特徴である道の駅・インドア空間と防災公園・アウトドア空間の両方が一体となった場所を活かし、多目的室でセミナーやカルチャー教室、子育て支援施設で親子の学び、広場・スポーツ施設等でアウトドア・フィットネス体験、調整池で農業体験・自然体験など、貴市にとって、新たな「学びのサードプレイス」を創出します。
- 屋外施設は降雨・降雪など天候や四季の変化により、利用者数の変動が起こります。そこで道の駅・インドア空間を活かし、梅雨の時期や猛暑や極寒・降雪の冬季など、屋外活動の停滞から利用者が減少することを事前に想定し、天候変化の影響が左右されにくい道の駅各施設の利用と併用させる仕組みにより対応します。



図表1-2-8 様々な「居場所」を作る施設計画